

## 議会報告「市民との意見交換会」記録

日時：平成30年8月10日（金）午後1時30分～3時00分

場所：議員協議会室

内容：議会報告並びに意見交換 兵庫県介護支援専門員協会加西支部8名

担当：加西市議会B班

### 1. 第1部 議会報告

6月定例会での議案審議の内容について説明。質問、意見はありませんでした。

### 2. 第2部 意見交換会

議員から質問して、ケアマネージャーに答えてもらった。

(質問) 介護保険法の改正で、介護される方からの声などで悩まれることはないか。

- ・訪問介護で生活援助の部分が介護保険から切り離されていっている。  
介護保険の訪問介護ではなく、代わりに生活支援サポーターが入る体制があるが、今までできていたことができなくなった。市独自の県生活援助事業も廃止になった。  
加西市の訪問介護の事業所が少なくなり、ヘルパーが高齢化している。
- ・3年毎の介護保険の見直しは市民には関係ない中で介護保険料が大きくなり、国は自立ということばを上手に使ってくるが、自立とは何かと問いかける場面が多い。使い方のルールも3年毎に変わってくる。市民に向けたわかりやすい説明が難しい。高齢者に自立をどう伝え、どう支援のチームが共有するか難しい。
- ・小規模多機能型居宅介護施設だが、地域密着型で地域に合わせて柔軟なサービスが提供できる。利用できるのは市内の方。ヘルパー、ショートステイ、デイサービスを一体的に一事業所でやる。ただし小規模でショートステイ9床、デイサービス18人。一定額でいろんなサービスが何回でも利用できるが、他の施設のサービスは受けられない。宿泊代、食事代は実費負担なので高くなる。
- ・介護保険制度がどれだけ市民に理解されているか疑問。施設に入所したくて議員に頼まれた人がいた。介護保険でベットをレンタルしているのを、他市での監査で「ベットをレンタルしているのでは自立ではない」と言われた。ベットがあるので立ち上がりやすく、一人でトイレに行ける。これが能力に応じた自立だと思うが自立の意味が難しい。
- ・加西市は地区によって交通の便、買い物の場所、病院の差が大きい。若い者に仕事を休んで頼むのも気を使う。病院内の移動は、介護保険のヘルパーは利用できない。巡回バスの乗り降り、買い物、移動に何とかならないかの声が増えてきた。加西市独自の助け合い、支援があればいいのにと思う。
- ・買い物と交通の面は気になる。  
家族と一緒にどうかで援助の内容が変わってくる。  
特養は要介護3以上なので重度化して業務量が多く大変になっている。介護職員のなり手が少なくなって忙しくなっている。医療的な問題もふえてくる。施設に入っている期間が短くなっている。
- ・同居家族のおられる生活支援の制限が多くあり、引きこもりの息子の援助を求められな

い中で生活をどう守っていくか課題がある。改定で生活支援の回数の見直しをしているが、定着してしまっているので変更しようとなると家族、本人の理解が得られない。理解を得るまでに、必要なことは必要だと市に上げていこうと思っている。

歩行器を押してがたがた道をバス停まで行けない、病院に受診に行けず薬が切れたままの人が多い。

配食サービスの利用も多く、待ちの状況になる。

加西市は温かみがあるなあと感じる。包括支援センターでも一生懸命に話の相談にのっていただけるし、民生委員の力強さ、ネットワークの強さは他市に負けない温かさがある。

(質問) 生活支援サポーターは、ボランティア的なものか。

- ・ 社会福祉協議会の地域福祉課に事務局がある。皆さんの持つておられる力を地域の中で発揮してもらいたくて、話し相手とか買い物ならできるという方を募りながら、使っていただく方と支援して下さる方のマッチングをさせてもらっている。30分250円。介護保険を使うまでもないが少し手伝ってほしい場面にこの制度を動かしている。

(質問) 2025年以降にサポーター等人材は間に合うのか。

- ・ 高齢者が増えていく中で、訪問介護事業所が減って、ヘルパーが高齢化している。デイサービスは事業所が増えている。
- ・ 介護療養型病院だが、8~10人の外国人ヘルパーがいる。増えてくる。
- ・ 小規模多機能型だが、ミャンマーからの予定ある。
- ・ 特養でも外国人ヘルパーの話が出ている。

(質問) ケアマネとして市に言いたいことはないか。

- ・ ケアマネのなり手が少ない。デイケアでたくさん職員がいるが、若い人は、「しんどそう」、「間に挟まれて大変そう」と言って試験を受けない。
  - ・ ワークライフバランスを取り入れて、その人の生活スタイルに合わせた仕事をしてもらっている。また、介護サポーターをつくって、直接介護ではなく掃除・話し相手・配食をしてもらっているが、募集をかけてもなかなか応募がない。
- 市としても、介護職、福祉は魅力的な仕事であると発信してほしい。

- ・ 他市に住んでいるが、そこでは巡回バスがあるので車の免許証を返納しても支障がない生活をされている。体が不自由になった夫婦の家の近くにある日突然バス停ができ、家の近くから乗り降りができている。加西市は何らかの方法で足を確保していただきたい。買物に行くのにタクシー代を3,000円払って2,000円の買い物をしたと聞いて、配達してくれる八百屋を探して定期的に持ってきていただくようになった。行くのではなく来てくれる方法もあってもいいのでは。

(質問) 介護と自立、尊厳の保持、公正中立・誠実とは。

- ・ 自立とは、自分で自分のことを決められることと捉え、寝たきりであっても自分のしたいことができ、自分の暮らしたい暮らしができることを一番に考えて仕事している。これが尊厳の保持につながっていると思う。いろんな提案をさせてもらって利用者に決めてもらうようにしている。
- ・ 利用者にわかりやすいことばで説明するよう心掛けている。

選ぶということで、市内のそれぞれの事業所が選択できるように、特徴も提示して選ん

でいただけるよう心掛け、中立・公正が図れるように工夫して取り組んでいる。

- ・8050の介護の課題。80代の父が50代の障がいの息子の世話をしている場合、相談を受けると、年代の価値観・こだわりを持たれているが、一人で抱え込まないようにネットワークをつくらうとしている。

(質問) ケアマネの仕事内容は、みんな同じか。

- ・介護のプランを作るのは同じ。居宅介護支援では月1度必ず訪問してうまくいっているか確認している。入院されたら在宅の情報を持っていき、退院されたらサービスの検討もする。施設ケアマネは、介護の認定調査がある。

(質問) 軽度サービス対策は。

- ・ケアマネだけでなく他職種連携で地域包括ケアシステムが動いている。その中で生活支援サポーターの協議会があり、市にたくさんの会議がある。そこにケアマネも参加させてもらっていて、問題点を出しているが、上まで届いていない現状がある。
- ・軽度の方でも食べることが大事。加西市では弁当の配達が増えてきている。食べるという尊厳を保障すると同時に、元気の確認が心強い一つの支援の内容になる。これも不足している。早く安心して多くの人に使っていただける仕組みを確立して行ってほしい。足がないので買い物に行けないが、毎日お弁当が届くことで安心につながっていく。また、地域の中で定期的に集まってみんなと一緒に弁当を食べる仕組みができていけばいいのと思う。

(質問) 加西病院の使い勝手はどうか。

- ・入退院の連携は他の病院よりかなりできている。ケアマネと加西病院の関係はかなりいい。新しい病院ができて医師が頻繁に変わるので不安がある。
- ・救急は時間外でも受け入れてもらえる。良い印象をもっている。

(質問) 要望は。

- ・居宅介護支援の権限が県から市になったが、市の長寿課職員の専門的知識を高めてほしい。
- ・食べることの状況で、もう少し何か力を貸してほしい。認知症の取り組みを4中学校区で差がないように検討願いたい。
- ・市が指定権者になったが、担当者によって解釈が違ってくる。退院時の加算の取り方が市によって違っている。利用者のための介護保険なので、柔軟な対応をしていただきたい。
- ・ケアマネだけの判断がでないときは市に確認するので、なるべくわかりやすい言葉で対応してほしい。
- ・問い合わせをしたときに、担当者によって回答が違うことのないように。認知症の専門の病院が少ない。往診してくださる在宅医師がふえてほしい。
- ・在宅医の先生も高齢化している。介護の仕事のPRを。
- ・今回、ケアマネの仕事を理解しようとしてもらったのがうれしい。一つ一つ一緒に考えていける関係性ができたら課題を乗り越えていけると思う。